

令和6年度 第1回周南市スポーツ推進計画策定委員会 会議録

1. 日 時：令和6年9月5日（木）19時00分～20時40分
2. 場 所：周南市役所本庁舎2階共用会議室G
3. 出席者：瀬尾賢一郎委員、明石和憲委員、近藤優子委員、藤本真樹委員、
徳原峰男委員、末長裕昌委員、藤井学委員、岡崎好治委員、
児島佳子委員、赤岸桃子委員

欠席者：なし

4. 事務局：文化スポーツ観光部 河津
スポーツ振興課 坂本、角田、吉松、山本、河添

5. 傍聴者：なし

6. 会議内容：

開会 事務局が司会進行

- 挨拶 文化スポーツ観光部長 河津 浩之
- 委員自己紹介
- 会長・副会長の選任

周南市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱第5条第2項により「委員の互選によって定める」と規定されているため、委員の互選とする。

出席者から特に意見がなかったため、事務局案として会長に瀬尾 賢一郎委員、副会長に明石 和憲委員を提案。各委員の了解が得られたため、会長に瀬尾 賢一郎委員、副会長に明石 和憲委員が選出された。

- 議事（進行は瀬尾会長）

発言者	発言内容
事務局	議事（1）計画改定方針と今後のスケジュールについて説明
質疑なし	

発言者	発言内容
事務局	議事（2）スポーツ推進計画の素案について説明

質疑	
第 2 章について	
委員	素案で、例えば e スポーツもスポーツであると定義しているが、アンケートにおけるスポーツに e スポーツやキャンプなども含まれているのか。
事務局	回答者の想像するスポーツのため、含まれているかどうかは回答者による。
委員	成人のアンケートの年齢の分布はどうなっているのか。
事務局	アンケートの集計を外部業者に依頼したが、回答を一件ずつ計算ソフト等に入力するのではなく、回答を手で数えて集計されたので、回答内容を統計的に分析することは出来なかった。事務局で全件入力することも考えたが、時間的にできなかった。
委員	年齢層が高い人だけが回答しているなど、偏りがあると困ると思った。数字が極端に減っている個所もあるので。手計算だから難しいということか？
事務局	はい。
委員	目標指数のスポーツ少年団加入率の部分について、前回の計画策定時に、スポーツ少年団以外の総合型地域スポーツクラブなどへの加入率も含めてカウントした方が良いのではないかと提案を行っている。子どものスポーツ活動はスポーツ少年団だけではない。次回は目標達成指数の項目を精査してほしい。
事務局	前回の提言を引き継げていなかったことは申し訳なかった。部活の地域移行に伴い、中学校の部活動から地域クラブの移行することで、大きな影響を受ける。次回の改定の際には、新しい指数が示せると思う。
会長	子どもたちのスポーツ活動のフィールドが内訳として明確に分かるように、次回是对応してほしい。
会長	成人のスポーツ実施率が極端に低くなっていることの分析はできているのか。
事務局	コロナ禍の影響などを推測しているが、原因は特定できていな

	い。
会長	そういう点でも、アンケートの回答の属性や年代別といった分析を基に計画に落とし込むことが重要。次回はその対応をお願いする
第3章について	
委員	最近はスポーツ少年団よりクラブチームへの加入が多い。
会長	そうであれば、目標値にはスポーツ少年団への加入率という表記よりは、クラブチームなど小さく分けていった方が良いかもしれない。
事務局	検討させてほしい。
委員	学校で、子どもたちに何かやっているかと聞けばよいのでは？
事務局	意図はわかるが、ニーズとしていろいろな活動が増えており、線引きが難しい。スポーツ少年団とクラブチーム位であれば、把握は比較的簡単かもしれない。
会長	子どもたちのスポーツ活動の場が多様化してきているので、スポーツ少年団と限定してしまうことに違和感があるのかもしれない。そうであれば、様々な活動が数字として挙がってくる表記とした方が、計画に沿ったものになるのでは。
事務局	地域クラブが活動を始めれば、そのあたりを数字として把握できると思われる。
会長	中学校部活動の地域移行に関する生徒の反応は？
委員	既に地域クラブに加入している者もいる。両方に加入している者もいる。学校では部活動に加入し、週に数回は地域クラブでも活動する者もいる。 そのあたりは、子どもたちは受け入れているのではないか。
委員	目標指数は、成人はスポーツ実施率だが、子どもたちはスポーツ少年団加入率となっている。なぜ実施率ではないのかが疑問。 いかにスポーツに親しめているかが目標であるなら、加入率は評価指数として適当ではないのではないか。
事務局	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を参考に検討する。

委員	スポーツ少年団の加入率を上げるには、団体の数を増やすことが必要。団体が減少している中で目標達成はできないと思う。
事務局	確認して、また次回にお示ししたい。
会長	スポーツボランティアの登録者数の根拠は。
事務局	山口国体後に県が制度化したスポーツボランティアの数字から引用している。しかしながら本制度は、スポーツボランティアの登録はできるものの削除はできないことから、実態を反映していなかった。令和5年度の登録数確認後に、登録者107人に改めて現在も活動可能か確認を行ったところ、登録者数が1/4に減った。今後、スポーツボランティアの新しい制度を検討していく予定であり、そのことを踏まえて目標値を設定した。
委員	以前、各地区の体育振興会に3名ずつスポーツボランティアを出すようにとの話があった。それを合計すれば、100名余りの人数になる。
事務局	今後新たに若い人のボランティアが活動していく仕組みを再構築する必要がある、この目標を設定している。
委員	昔はスポーツフェスタをボランティアが手伝っていたこともあった。そのあたりは今後の課題だろうと思う。
委員	「地区スポーツ事業への参加者数」はスポーツに限ったものか。
事務局	各地区のスポーツ振興会の事業報告の活動人数を集計しており、振興会のイベント全てとなっている。
第4章 基本方針1について	
委員	スポーツでつながる地域で取り上げるなら、いきいき百歳体操など高齢者について取り組んでいる内容も取り上げるとよい。コロナ禍で高齢者が虚弱化し外出できなくなったケースもあり、移動手段の拡充も課題。
会長	サロンの担い手の育成は、社協が取り組まれていると思うが。
委員	担い手が高齢化していることも課題。移動手段が無いために、運動機会が奪われる方がいることも課題。
事務局	高齢者に関係する他の計画で取り上げる課題とも思われるが、

	どう扱うか検討させてほしい。
会長	計画全体として、高齢者の扱いが少ない印象があるので検討してほしい。
委員	スポーツを通じた地域活性化のところで、以前開催していたような地域対抗のスポーツ大会が開催されるとよい。
会長	特定のイベントをとというよりも、さまざまなスポーツ活動が盛んになるようにといった表記を盛り込むことを検討してほしい。
第4章 基本方針2について	
委員	部活動の地域移行の際に金銭面などの支援を考えてもらえるのかと思い策定委員に参加した。
事務局	中学校部活動の地域移行だが、低年齢期にしっかり運動する機会を創出していかないといけないという思いがあり、その部分の記載に力が入っている。
会長	中学校部活動の地域移行に関しては、本計画の策定と地域移行の協議会が同時に進行していると思うので、擦り合わせを行い、齟齬が生じないように素案に盛り込んでほしい。
委員	「誰もがアクセスできる」の意味は？通常、アクセスというと、地図的なイメージ。そこに行くための移動手段というイメージがある。
事務局	身近な地域でスポーツ活動ができるという意味。
委員	「誰もが」とあるが、中学生のことを言っているように見え、記載内容が不十分。
事務局	記載内容について検討する。

● 次回の策定委員会について

日時：令和6年10月3日（木）19時00分～20時30分

場所：周南市役所 2階共用会議室E